

I. (5) 平成 30 年度 能勢高校 SGH 課題研究成果 <3 年生>

マレーシア留学からみた多様性と分断と共生

3 年 齊藤 依乃里

本課題研究では、マレーシア留学から学んだ多様性と分断と共生について考察する。

留学中はマレーシアのクアラルンプールにある姉妹校で学んだ。マレーシアは多民族、多言語、多宗教の国家であり、学校では様々な文化をバックグラウンドに持つ友人とともに過ごした。この体験の中で発見したことは、マレーシアは多様な人種が一緒に住んでおり寛容であるというが、自然と民族別のグループができていたということだった。しかしそれは、民族同士が反目して暮らしているのではなく、一定の距離を保ちながらもお互いを尊重しながら共生しているということであった。このことから、多文化社会で異なる民族がぶつかり合わずに一緒に暮らして行くには「適切な距離感」を持つことが大切ではないかと考えた。

多様性を認めることが国の基本方針であるマレーシアにブミプトラ政策がある。ブミプトラ政策とはマレー系の住民を保護・優遇するための経済政策で、結果的には、ある場面ではマレー系以外の人々を排除することになる。この政策についてマレーシア在住の友人に訪ねると、民族ごとに賛否両論があった。

そこで、世界を見渡してみると同じようなことが起こっていた。たとえば英国のEU離脱である。イギリスへの移民は、この数年は毎年 20 万人近くがEU加盟国から流入しており、国民の間で不満や懸念が強まっている。英国のEU離脱は移民の排除の意志を表したものだと考えられる。

これから外国人労働者を受け入れる日本でも、これらの外国人が仕事の熟練度を上げれば、地域密着型のサービス業や農漁業などで生計を立てる地方の労働者に、しわ寄せが来る。英国の移民問題と同じ構図になるのではないかと、懸念される。

次に、日本で受け入れられ活躍している外国人労働者の例を紹介する。バングラデシュ生まれのミア・マムンさんは 2002 年に来日し、千葉県旭市で 2 年間農業を学んだ後に 2012 年に株式会社みのりを創業した。「日本の農業を企業に変える」を合言葉に農業を起業化し成功を収めた。マムンさんは「ハラール・メイドイン・ジャパン」に着目し、ハラールビジネスと「日本製」というブランド力を結び付け付加価値をつけ、農業分野のビジネスとして成功事例となっている。

能勢町は人口減少や少子高齢化のために消滅可能性都市全国ワースト 24 位（2014 年日本創生会議発表）として将来に大きな不安を抱えている。マムンさんの農業ビジネス成功事例を能勢町でも活かし、農業での活性化ができないかを考えた。能勢町が、ハラール・メイドイン・ジャパンを旗印に農業の事業化を進め、外国からも人々を迎え日本農業のグローバル化の先駆けとなってはどうか。

- ハラール・メイドイン・ジャパンを旗印に農業をグローバル化
- 日本語学校の創設による留学生の募集
- イスラム圏の起業家を支援し提携
- 能勢町ハラールセントラルキッチンを整備
- 大阪圏へのハラール食材の供給

マレーシア留学からみた多様性と分断と共生

3年 齊藤 依乃里

マレーシア留学からみた 多様性と分断と共生

齊藤 依乃里

マレーシアに1年間留学しました
大阪府立能勢高校の姉妹校アスタ高校(女子高)



マレー語でスピーチ

クラスメート

マレーシアは 多民族、多言語、多宗教国家

- ・民族:マレー、中国、インド...
- ・言語:英語、マレー語、中国語、タミール語...
- ・宗教:イスラム教、キリスト教、仏教、ヒンズー教...

マレー系



インド系 留学前半のホストファミリーはインド系



中国系 留学後半のホストファミリーは中国系



留学をしている中で 気づいたこと

気がついたこと
食べ物が違うからか、自然と民族別のグループで一緒に食べている

- ・マレーシアは多様な人種が一緒に住んでいて寛容というけれど、お昼食べるときとかは、食べ物が違うからか、自然と民族別のグループで一緒に食べてるんですよ。
- ・つまり、一緒に住んでいるのに、あんまり混ざっていないのではないかな。

気がついたこと
距離感が大事なんじゃないか

- ・異なる民族が喧嘩せずに一緒に暮らしていくには距離感が大事なんじゃないかな。
- ・各民族は他の民族と交流するもの、互いの違いを尊重し、一定の距離を保ち余計な干渉はしない。
- ・つまり日本人同士のようにぴったり以心伝心分りあえるほど密着し合っている、ある程度距離を置きながら同じ空間で勉強し、仕事をしても、喧嘩にならない、というのが重要じゃないかな。

多様性とは何か

- ・多様性とは幅広く性質の異なる群が存在すること。
- ・多様性を認めるということは、「自分と違う人もいる」ことを理解すること。
- ・多様性の反対語は、排他的
- ・「自分と違う人は排除する」というのは排他的な考え。
- ・排他的はよくないのではないかな。ところがマレーシアにはブミプトラ政策がある。

ブミプトラ政策とは何か

- ・マレーシアでは中国やインドからの移民が昔から多かった。さらに、イギリス植民地時代には、宗主国のイギリスによって中国やインドなどから外国人労働者が連れてこられたため、多民族社会化がさらに進んだ。
- ・イギリスから独立後、経済的に豊かな中国系人と先住民であるマレー人の対立が進み、中国系人によるシンガポールの建国(マレーシアからの分離独立)や5月13日事件に代表される民族対立が続いた。

5月13日事件

1969年5月10日に実施された総選挙を直接の原因とするマレーシア史上最悪の民族衝突事件

- ・政治的には民族間(マレー人・華人・インド人)の融合政策。
- ・次の世代のマハティールらにとって民族融和政策は不満の残るもの。
- ・マレー人は経済的に常に華人に対して劣位に立たされている状況が変わらず、貧困が続くという認識が事件の根源的要因。
- ・その結果、マレー人の農村部の開発と商工業部門への参入を支援・優遇する政策が始まった。→ブミプトラ政策

アスタ高校の友人Lさん(中華系)が語るブミプトラ政策

- ・I don't know much about this policy as I've never really read up so much about it.
All I know about it is just 'touching the surface of the water' which means it's very general and not deep.

アスタ高校の友人Lさん(インド系)が語るブミプトラ政策

- ・I think bumiputera is given too much privilege sometimes, even though giving them financial aid is necessary, but I still think every race in Malaysia should be given equal rights.
- ・I do feel unfair sometimes.

友人Fさん（マレー系）が語る ブミプトラ政策

- I had a opportunity to study in Japan under a special program, for Bumiputra. Thanks to the program, I am able to go to Japan

-The special program is only for government school students with Bumiputra

16

友人Nさん（ニョニヤ（マレー系と中国系）京都大学元留学生）が語るブミ プトラ政策

- I'm not very patriotic about this. Because I'm from both sides. Malay (Bumiputera) from my father and Chinese (non-bumiputera) from my mother. Hence, I see both advantages and disadvantages. I can not say whether it is good or not. However, what I want to emphasize is all Malaysian should just obey the Rukun Negara. Because even if you're bumiputera or non-bumiputera, this is the basic country rule a citizen should adhere to.

17

話を聞いて

ブミプトラ優遇政策があることで、少し不公平だと感じている人もいて、賛否両論、メリットとデメリットがあるのは当然である。

マレーシア人としてのオリジナルのマレー系の住民を保護するための経済政策であるので、必要性も感じながらも不公平なども感じている。

お互いを尊重しながら共生して、国を良くしようという考えは共通していて、皆違う民族だが「マレーシヤ人」 Malaysian だというアイデンティティを感じた。

18

世界でも同じようなことが起きている。



19

大量の移民によって求職者の賃金が下 がると警告（イングランド銀行）

- 2015年12月にイングランド銀行が移民と賃金の関連性についてのレポートを出した。そのレポートによれば、移民の比率が10パーセント増加すると非熟練労働者の平均賃金が2パーセント低下する。
- イングランド銀行は大量の移民によって求職活動者の賃金が下がることを公表、経済学者も移民の増加によって介護福祉士・清掃業者・ウェ이터などの業種が移民と競争にさらされ給料が下がると警告。

20

英国のEU離脱

- イギリスへの移民は、この数年は毎年20万人近くがEU加盟国から流入して、国民の間で不満や懸念が強まっている。
- 離脱派は、移民の流入を管理するには、EUからの離脱しかないと訴えていて、移民の流入が制限できれば、国民の社会保障費の負担が減り、雇用環境が改善するとしている。

21

学歴に日本分断のリスク(1) 日経新聞記事(抜き書き)

- グローバル化の波に乗った知的エリート層と地域密着型のサービス業や農漁業などで生計を立てる多数派層に分断リスク。

22

学歴に日本分断のリスク(2) 日経新聞記事(抜き書き)

- 英国の国民投票で有権者の52%が欧州連合(EU)からの離脱に賛成した。貿易や直接投資、さらには金融サービスの停滞を招き、英経済を苦しめるのが自明なのに、なぜ離脱を選択したのか。

23

学歴に日本分断のリスク(3) 日経新聞記事(抜き書き)

- 2004年のEU東方拡大を契機にポーランド、ルーマニアやバル3国などから移民が増加し、英労働者の賃金が押し下げられた。
- リーマンショックを境にして英国の世帯収入は急減速し、外国人労働者の流入とともに賃金は抑えられた。
- EU離脱を支持したのはイングランドの地方都市に暮らす白人労働者だった。

24

学歴に日本分断のリスク(4) 日経新聞記事(抜き書き)

- 先の国会で改正入国管理法が改正された。
- 4月から受け入れを始める労働者のうち、通算5年までの在留を認める特定技能1号の職種は、農漁業、外食、介護、ビル清掃、素材加工、建設、車整備、宿泊など14業種。
- これらの外国人が仕事の熟練度を上げれば地方で暮らす農民の暮らしを圧迫し、英国の移民問題と同じ構図になるのではないかと懸念されている。

25

しわ寄せは受け入れる地方に来る

- 日本の場合、今まで難民の受入も非常に慎重にやっていたのに、急に外国人労働者に門戸を開いても、経験値が低いし、結局しわ寄せは受け入れる地方に来るが、地方では全く準備できていない。
- これではやってくる外国人にとっても、日本にとってもお互いに不幸になってしまうのではないか。

26

農業会社を創設したミア・マムン さんを訪問(千葉県多古町)

- ミア・マムンさん1980年バングラデシュ生まれの38歳。日本人と結婚し、その後日本国籍を取得した。2002年来日し17年目になる。
- 2006年にノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行創設者ムハマド・ユヌス氏が卒業したチッタゴン大学で経営学部を学びその後日本に留学し、東京の日本語学校に学んだ。千葉県旭市で2年間農業を学んだ後に2012年に資本金1000万円で株式会社みのりを創業した。

27

ミア・マムンさん



28

直売所を経営

- 千葉県横芝光町のスーパー跡地を借りて直売所と加工所を作った。最初は養鶏2000羽からスタート。卵焼き、パン、洋菓子等の原材料が欲しかったのが理由だ。
- 直売所で販売した農家の農産物は全量買い取り、売れ残ったものはすべて自分たちで加工した。6次化により利益率は37～38%確保でき、年商は初年度800万円、2年度6000万円、3年度1億6400万円と伸びた。

29

農業を企業へ

- 沿道立地のレストランや農地、JA建物を買収し、グループ企業の従業員は450人にまでに成長した。今期は8年目となるが、年商43億円となり資本金を1億円に増資した。「日本の農業を企業に変える」が合言葉だ。

30

国際協力日本語学校を創設 廃校となった小学校校舎を活用



31

ハラール認証のセントラルキッチン を建設

- 日本初となるハラール認証のセントラルキッチンも建設中だ。農産物生産、養鶏、ライスセンターでの精米を行うとともにセンターキッチンではムスリム向けカット野菜、ムスリムミール、ムスリム向けパン製造、ハム・ソーセージ、精肉加工を行う。

32

建設中のセントラルキッチン HACCP、ISO22000、G-GAPを取得



33

『ハラール・メイドイン・ジャパン』 はブランド

- 成田空港機内食、ホテル食、大使館、輸出などは信用あるハラール食を求めている。
- ハラール・メイドイン・ジャパンはブランドとして付加価値を高められる。しかし日本人は日本産ハラールに価値があることを理解していない。

メイドイン・ジャパンはなぜブランドになるのか

- ① 世界から安全性が信頼されている。
- ② 日本人の行動など、態度全体が信頼されている。

34

農家との格差や軋轢を生んでは いけない

- 改正入国管理法が改正され、農業就労に通算5年までの在留が認められた結果、意欲ある外国人が農業に参入する機会も増える。
- マムンさんのような成功者も増えるだろう。成功を疎む農家と格差や軋轢が生まれるのであれば、英国のEU離脱を支持した英国農民の例を取るまでもなく、排他的な分断社会を招く恐れがある。

35

大阪府能勢町は 消滅可能性都市全国ワースト24位

順位	道庁	推定人口増減率(%)
1	北海道	1.00
2	青森県	0.99
3	岩手県	0.98
4	秋田県	0.97
5	山形県	0.96
6	宮城県	0.95
7	福島県	0.94
8	茨城県	0.93
9	栃木県	0.92
10	群馬県	0.91
11	埼玉県	0.90
12	千葉県	0.89
13	東京都	0.88
14	神奈川県	0.87
15	新潟県	0.86
16	富山県	0.85
17	石川県	0.84
18	福井県	0.83
19	山梨県	0.82
20	長野県	0.81
21	岐阜県	0.80
22	静岡県	0.79
23	愛知県	0.78
24	大阪府	0.77
25	兵庫県	0.76
26	奈良県	0.75
27	和歌山県	0.74
28	徳島県	0.73
29	香川県	0.72
30	愛媛県	0.71
31	高知県	0.70
32	佐賀県	0.69
33	長門県	0.68
34	大分県	0.67
35	熊本県	0.66
36	鹿児島県	0.65
37	沖縄県	0.64

日本創生会議
(議長 増田寛也 元総務相)
2014年発表

36

グローバル化の波にさらされる能勢町



37

地方(能勢町)に分断社会を作ら ないためにすべきことは何か

- 共生や寛容は、知ること、わかりあうことからのスタートするべき。このため、グローバル教育、多文化教育をしっかりとすること。
- グローバル化に向けた積極的、主体的な農業を展開すること。
- イスラム諸国からのインバウンド市場の拡大を見据え、地域の活性化に繋げること。

38

能勢町でハラール・メイドイン・ジャ パンを旗印に事業化を進めてみたら どうか(提案)

- 能勢町がハラール・メイドイン・ジャパンを旗印に農業のグローバル化を考えてみてもよいのではないだろうか。マムンさんは日本農業のグローバル化に欠かせない貴重な道先案内人ではないか。
- 日本語学校の創設による留学生の募集。
- イスラム圏の起業家を支援。
- 能勢町ハラールセントラルキッチンの整備。
- 大阪圏へのハラール食材の供給。

39

マレーシア留学からみた 多様性と分断と共生 ご清聴ありがとうございました



40